



2018年3月1日
第623号
 1部10円(組合員は組合費を含む)
 郵便振替00960-7-117274
 Tel (06)4793-0633 Fax(06)4793-0644 E-mail: info@ewaosaka.org http://www.ewaosaka.org

発行 大阪教育合同労働組合
 Education Workers and Amalgamated Union Osaka(EWA)
 発行人 大橋 裕子
 連絡先 大阪市中央区北浜東1-17 8F

岸和田支援学校

看護師に対する 不当解雇・パワハラ事件裁判はじまる!

本紙620号(2018年1月15日発行)で提訴をお知らせした上記裁判の第1回公判が、2月14日に大阪地裁809号法廷で行われました。

あふれる傍聴席

35人分しかない法廷の座席は開廷前に満杯になり、受付をしていた私と遅れてきた毎日新聞の記者は入れませんでした。3分の1くらいは研修生らしき人がいたとはいえ、原告組合員である看護師たちの知り合いや、組合員、そして、他組合の方々にも関心の高さがうかがえました。また、勇気をもって提訴に踏み切った3名の看護師たちを応援したいという強い思いも溢れていました。

予断を許さぬ裁判

担当の裁判長は、「君が代」不起立処分裁判などで不当判決を出し続けている内藤裕之氏となりました。この裁判で

は、岸和田支援学校の管理職が、長年良好な関係を築きながら働いてきた5名の非常勤看護師のあいだに分断を持ち込み、職場の問題に積極的に意見する(管理職の意に沿わない)3名のみを不当に解雇したことを追及しています。また、管理職からパワハラの加害者と決めつけられて職員室に閉じ込められるなどのパワハラ被害を受けた組合員の心情を、裁判官にどこまで理解させるかが問われています。単純な「任用」問題とするような不当な判決を出させないための取り組みが重要です。

よくわかる報告会

公判の直後、裁判所の近くにある大阪労働者弁護団事務所で開催され、これにもたくさんの支援者が参加しました。担当の村角弁護士、山中弁護士、在間弁護士から裁判の概要を説明していただきました。この裁判は、「非



常勤公務員」という名の労働者を「雇い止め」という名の解雇をするという問題を争うもので、難しいけれど、労働者と弁護士がタッグを組んで闘うという大きな意味があるものだということがわかりました。原告組合員3名からは、看護師としての仕事を奪われた無念と、提訴することになった決意を語っていただき、組合からは労働委員会の場で争っている内容についての説明がありました。

これからも支援の継続・拡大を!

原告組合員3名と支援者10名ほどで、裁判の翌日に岸和田支援学校の校門前で、教職員や保護者などを対象にした

情宣活動(ピラ配り)をおこないました。この活動は今後も随時やる予定です。原告組合員の覚悟に敬意を表します。裁判の次回公判は、4月18日(水)11:30~、大阪地裁809号法廷です。今後とも、多くのおみなさんのご支援をお願いします。

増田俊道(執行委員)



裁判の翌日(2月15日) 岸和田支援学校校門前でのピラ配り

今度は 吹田支援学校で!

妊娠した組合員へのパワハラ・マタハラ 管理職が謝罪!

事の発端は吹田支援学校に勤務する妊娠中の組合員が男子生徒に暴力を受けたことでした。

【暴力を振るわれた側に 謝罪を迫る教頭】

当該生徒の保護者は、「暴力を振るわせた方が悪い」と主張し、組合員からの謝罪と妊娠中であることを理由に担任から外すことを要求しました。組合員からの相談を受け、組合は校長に対し、被害者で

妊娠中の女性へのハラスメントを許すな!

ある組合員の謝罪はあり得ないこと、学校として毅然とした対応を取ることを要求しました。しかし、教頭は事態収束のためにと組合員に保護者へ謝罪するよう幾度となく指導しました。

これらのやりとりは妊娠中であるにもかかわらず、職員室内で立たせたまま長時間にわたり行われるなど、配慮を欠くものでした。また、年休

申請をしているにもかかわらず、取消や職務命令で出勤するように発言するなど高圧的な態度は目に余るものとなり、組合員は教育庁のハラスメント相談窓口で昨年8月に相談を行いました。

【府教育庁ハラスメント相談窓口の機能不全をただす!】
 ハラスメント相談窓口の機能不全は組合が取り組んだ多

くの問題で露呈しています。しかし、1月、教育庁は管理職による配慮不足と判断し、教頭には「所属長による注意」、また教育庁立ち合いの下、管理職が組合員へ謝罪を行いました。泣き寝入りせずに不当な扱いを訴え続けた組合員の快挙です。

教育庁の相談窓口も全くの機能不全ではないようです。第三者の証拠や意見等を積極的に提供し、ぜひ活用していきましょう。酒井さとえ(書記長)

堺支部

続報

賃金・一時金、退職金団交

堺市・堺市教委は退職手当に関する案ができていないとして団交を再三にわたり延期し、年度内実施の意向は表明しながらも、1月1日実施を見送り、交渉は越年しました。その後、ようやく2月5日に団交が再開されましたが、堺市・堺市教委は具体的な提案をできないまま、年度内実施だけは表明していました。

組合は、年度途中どころか年度末になっても提案ができておらず、今年度末退職予定者が正式には何も知らない状態での年度内実施は認められない、と追及しましたが、堺



市教委はそれ以上答えられず、組合は年度内実施を見送るか具体的な提案がされるまで団交を中断すると宣言し、席を立ちました。

ところが、半日もたたない翌日、堺市・堺市教委としての案ができたことと連絡があり、7日に団交を再開しました。そこでは経過措置として今年

度のみ、調整率の引下げ幅を狭める（政府・大阪府83.7/100 堺市85.35/100）こと、3月31日に実施したいことが提案されました。組合は今年度末退職予定者に対しては未だに退職手当減額が知らされておらず、議会での議決を待ってからしか周知されない、闇討ち的なやり方であること、

20政令指定都市の中でも年度内実施は3市（堺市は除く）にとどまることなどから、重ねて年度内実施の見送りを要求しました。

この日が最終回答であり、引下げ率や実施日の変更はないとする堺市教委に対して、年度内実施見送りを議会での議決ぎりぎりまで努力すること、退職予定者にきめ細かな周知をすること、再任用の追加申込があれば応ずることなどを求めて、団交の継続を申し入れ、この日の団交を終了しました。

高島伸(堺支部)

労働者が自らの闘いで勝ち取る春闘に！ 春闘決起集会・西日本春闘討論集会開催

2月16日、エルおおさか南館ホールで、おおさかユニオンネットワーク主催の春闘決起集会が開催されました。



基調講演では、17年間派遣社員として働いた会社を、無期雇用転換直前に雇い止めされた渡辺照子さんが、お話をされました。派遣労働者が抱える問題点を自らの体験を通じて分析・整理されており、労契法18条無期雇用転換において、短期間の契約更新を繰り返す派遣労働者がゆえに脱法

行為の対象になりやすい現状が見えてきました。

また全日建関西生コン支部、トラック支部からは、排外主義者らを投入した組合への激しい弾圧の実態について、映像を交えた報告がありました。

翌17・18日には、北九州で西日本春闘討論集会が開催され、様々な組合と春闘に向けた取り組みについて情報交換が行われ、官製春闘ではなく労働者自らの闘いで勝ち取る春闘を実現することを確認しました。 大椿裕子(執行委員長)



当面の日程

- 3月6日(火) 18時半集会、新町北公園(地下鉄四ツ橋駅)
戦争あかん！ロックアクション御堂筋デモ(19時10分～デモ)
- 3月9日(金) 18時45分 エルおおさか701号室
シンポジウム『大阪市の学校は4月からどうなるのか』
- 3月10日(土) 14時 組合事務所
臨時講師・職員継続雇用獲得闘争 第3回闘争委員会
- 3月11日(日) 13時半 エルおおさか大ホール
さよなら原発関西アクション(15時50分～西梅田までデモ)
講演「福島の祈り」神田香織 講演「原発・核燃の破綻」海渡雄一
- 3月17日(土) 18時～20時 エルおおさか504
反核世界社会フォーラム
核兵器も原発もいらない！気候を変えるな、システム変えよう！
報告：寺本勉(教育合同高校支部)

文化おちこち

(194)

南京・上海スタディーツアーに参加して

【その6】

8月6日に、私たちは南京大虐殺記念館(侵華日軍南京大屠殺遇難同胞記念館)を訪問しました。南京と広島で殺された犠牲者の無念さと怒りに思いをはせ、黙とうをし、花束を捧げました。記念館は虐殺犠牲者を埋葬した「万人坑」を含む広大な敷地に1985年に建てられました。庭には遺骨を象徴する白い石が敷き詰められ、13個の石碑には市内13ヶ所での集団虐殺のことが記されています。日本軍の暴虐を表現した高さ2メートルのレリーフが幅51メートルにわたって立ち並び、多くの彫刻が置かれています。

記念館は80周年にあたってのリニューアル中ということで、臨時展を見学しました。おそらく中国全土からの来館者でしょうか、かなりの人が入場待ちをしていました。欧米からの来館者も多くいま

したが、残念ながら、日本からは少ないようでした。多数の蠟燭が揺らめく瞑想室があったりして、反日教育の施設というよりは、歴史的事実を伝え、犠牲者を慰霊するためのメモリアルホールだと感じました。

日本で発行されている中国の旅行ガイドには南京大虐殺記念館について言及していないものもあります。ぜひ多くの日本人に訪問してほしいと思いました。

記念館の壁には「遭難者300000」と大書してあります。歴史改ざん者は、犠牲者数が多すぎると言って南京大虐殺そのものを否定したり、薄めたりしようとしてきました。

堀田善衛は、南京大虐殺を描いた小説「時間」の中で主人公の中国人に次のように語らせています。「死んだのは、そしてこれからまだまだ死ぬのは何万人ではない一人一人が死んだのだ。一人一人の死が何万にのぼったのだ。何万と一人一人この二つの数え方のあいだには戦争と平和ほどの差異が、新聞記事と文学ほどの差がある...」



ひっそりとあった「日本-老人」の碑



「企業が最も活動しやすい国にしていく」これは政権奪還後、安倍首相が真っ先に経営者に向かってリップサービ

スした言葉だ 日本はすでに「米軍が最も活動しやすい国」安倍政権の理想は政・経・軍の三位一体 次の目標は勿論「自民党が最も改憲しやすい国」